

日本周産期・新生児医学会 第44回周産期学シンポジウム演題募集要項

テーマ：未来へつなげる周産期学 子宮内環境と児の Well-being を考える

演題募集

第44回周産期学シンポジウム(2026年1月開催)につきまして、テーマを「未来へつなげる周産期学 子宮内環境と児の Well-being を考える」として演題を募集します。

母児の Well-being は周産期学の最も重要なテーマで周産期医療の目的そのものです。多くの知見の集積により、母児の健康を達成する医療が可能となってきています。一方で、本邦の周産期医療で大きな課題として残っている案件は、出生児の低体重化です。低出生体重児（出生体重<2500g）の出生率は、過去20年間9%台半ばで推移しており、国際的にみてもOECD(経済協力開発機構)参加国の中でも最上位群に位置します。他の欧米諸国では同数字が7%程度で、中には改善傾向の見られている国もあるので、本邦の状態がかなり特殊であることがわかります。

出生児の低体重およびそれに先立つ胎児発育不全については領域を越えて多様な検証が行われています。たとえば母体・胎児領域では母体の状態の評価、また胎児適応での選択的早産の是非について、小児領域では急性期合併症および慢性期・遠隔期合併症の管理や児の成長について、公衆衛生学や栄養学などからの検証など、多くの学会や学術誌で意見交換や研究成果の共有が行われています。しかし、低出生体重児の生活習慣病発症リスクなどのように、新たに出現する課題もあり、継続した検討が必要です。また、程度の差はあれ、施設の規模にかかわらず発生する案件でもあるので、周産期医療に携わる全ての医療者が考えていかななくてはならないテーマでもあります。

過去には第27回周産期学シンポジウム(2009年)で「早産重症胎児発育不全 Severe preterm FGR (IUGR) (病因と病態/管理と予後)」として同様のテーマが採りあげられました。以降十数年が経過し、この領域における研究は発展し新しい知見が得られています。そこで「子宮内環境と児の Well-being」という切り口から、領域横断的、多角多面的な検討を期して企画しました。新規性のある多数の演題応募を期待しています。尚、今回は胎内感染および母体のメンタルヘルス不安定による子宮内環境不良に関する演題、また児が基礎疾患(染色体異常など)を持つ場合の胎児発育不全に関する演題は対象としておりませんのでご注意ください。

本シンポジウムでは、発表の約1年半前に応募を受け付け、運営委員とともに研究計画等を吟味し、内容を発展させます。このような特性上、既報の研究成果のみではなく、新たな知見を期待できる発展性のある意欲的な研究の応募を希望します。また、基礎研究の演題も受け付けますが、臨床応用への道筋や客観的な評価が明確である演題を望みます。尚、応募時点でその研究独自の結果が全く得られていない演題、ナラティブ・レビューのように独自の分析が行われていない演題は採択されません。

周産期学シンポジウムはこの第44回をもって、現行のかたち、独立した学術集会としての開催は終了となります。当シンポジウムの歴史は、詳細が当学会HPの「周産期学シンポジウム概要」のサイトに掲載されておりますが、1983年に当時の日本周産期学会の学術集会として始まりました。以来、本邦の周産期医療者が一堂に会して学び、意見を交換してきたこのシンポジウムは、一貫して母

児の Well-being につながる Science と Evidence をもともとめて開催されてきました。今回も未来に繋がる研究の Seeds となる多数の演題の応募を期待しております。

キーワード

合併症妊娠、プレコンセプションケア、妊婦の耐糖能異常、妊婦の代謝疾患、妊娠合併症、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、胎盤関連産科合併症、胎盤・臍帯異常、胎盤発育不全、胎盤梗塞、慢性早剥、羊水過少症候群(CAOS)、羊水過少、高年妊娠、若年妊娠、妊婦の栄養管理、妊婦のやせ、妊婦の肥満、妊娠中の体重増加、妊娠中の薬剤

生育環境、環境暴露、Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD)、胎児期プログラミング、エピジェネティクス、エピジェノム、DNA メチル化、ヒストン修飾、遺伝子発現制御、生活習慣病、インスリン抵抗性、hyperfiltration theory

胎児胎盤機能不全、低酸素症、胎児心拍数モニタリング、Non-reassuring fetal status (NRFS) 胎児血流速度波形、胎児心機能、胎児中枢神経機能、胎児内分泌機能、胎児発育不全 (FGR) 、Small for gestational age (SGA)、低出生体重児、Heavy for date、過体重児、早産

子宮外発育不全 (EUGR)、児の栄養管理、Early aggressive nutrition、児の栄養不足、adiposity rebound、静脈栄養関連疾患、静脈栄養関連胆汁うっ滞 (Parenteral Nutrition-Associated Cholestasis, PNAC)、腸管不全関連肝障害 (intestinal failure associated liver disease, IFALD)、呼吸障害、慢性肺疾患、胎便関連性腸閉塞 (meconium related ileus, MRI)、壊死性腸炎、特発性腸穿孔 (focal intestinal perforation, FIP)、新生児低血糖、高インスリン血症、多血症、過粘度症候群

応募要項

1. **応募書類**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書*」の3点です。下記URLよりデータをダウンロードしてください。
 - 1) 応募用紙：https://www.jspnm.jp/uploads/files/meeting/oubo_44.xlsx
 - 2) 抄録用紙：https://www.jspnm.jp/uploads/files/meeting/shoroku_44.xlsx発表者の利益相反自己申告書：
https://www.jspnm.jp/uploads/files/about/riekisouhan/rsj3_20230708.docx
https://www.jspnm.jp/uploads/files/about/riekisouhan/rsj2_20230708.pdf
(Word版にてフォーマットが崩れる場合は、PDF版をご利用ください)
*利益相反指針及び指針細則は以下のURLを参照ください。
<https://www.jspnm.jp/uploads/files/about/riekisouhan/rss20230708.pdf>
2. **応募演題の注意点**
 - 1) 同一施設からの応募数に制限はありませんが、同一応募者は複数の演題を応募できません。
 - 2) 応募者は原則として会員（応募～発表時まで）かつ単名に限ります。なお、共同研究者等の名前を示す場合は、演題発表の際に謝辞等として示してください。
 - 3) 過去に周産期学シンポジウムで応募演題を2回以上発表した会員は演題応募できません。
 - 4) 前向き・後ろ向き研究に関わらず、応募には施設の研究倫理審査委員会・Institutional Review Board等への申請が済んでいることが必要で、最終選考（2025年6月予定）までに承認が必須です。
 - 5) 応募時点でその研究独自の結果が全く得られていない演題、ナラティブ・レビューのように独自の分析が行われていない演題は採択されません。
3. **応募方法**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書」を、E-mail の添付文書として学会事務局宛、件名は「第44回周産期学シンポジウム応募演題」として送信ください。
4. **応募用紙**
 - 1) 下記【**「応募用紙.xlsx」への入力についての注意**】に沿って作成ください。
 - 2) 応募用紙のファイル名は「発表者名-応募用紙.xlsx」としてください。
5. **抄録本文**
 - 1) 抄録本文は、目的～考察：1,600字以内＋今後の研究計画（シンポジウムでの発表までに実現可能な内容）：200字以内（文字数厳守）、図表不可とし、MS Excel形式で保存してください。
 - 2) 文字数のカウントは、それぞれの枠下に返された数とします。
 - 3) 目的、方法、結果、考察、今後の研究計画の順に記載ください。
 - 4) 個人情報や生命倫理等、特に倫理的配慮を必要とする研究である場合は、行った具体的配慮について記載ください。
 - 5) 抄録本文のファイル名は「発表者名.xlsx」としてください。
6. **発表者の利益相反自己申告書**
 - 1) **【利益相反に関する自己申告書の提出】**に沿って作成ください。
 - 2) 利益相反自己申告書のファイル名は「発表者名-利益相反.docx（または.pdf）」としてください。
7. **演題送信先**：info@jspnm.org（日本周産期・新生児医学会事務局）
8. **応募締切**：2024年9月30日（月）13:00 厳守
9. **問合せ先**：日本周産期・新生児医学会事務局
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 メジカルビュー社内
TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

- *演題受付後、10営業日以内に事務局より「受付メール」をお送りいたします。連絡がない場合は事務局に問合せください。
- *応募演題は周産期学シンポジウム運営委員会による書類選考、一次選考、最終選考を行い、2025年6月までに第44回 周産期学シンポジウム口演演題として決定する予定です。
- *書類選考：演題応募者には、2024年11月29日（金）までに書類選考結果をお知らせいたします。
- *一次選考：書類選考通過者は、2024年12月13日（金）の一次選考会（東京）に出席いただきます。一次選考会では、スライドを用いたプレゼンテーション（7分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。一次選考会終了後、選考結果をお知らせいたします。応募者が出席できない場合は、演題が不採択となることがあります。
- *最終選考：一次選考通過者は、2025年6月の最終選考会（東京）で再度スライドを用いたプレゼンテーション（10分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。最終選考会終了後、最終結果をお知らせいたします。

【「応募用紙。xlsx」への入力に関する注意】

必要事項はすべて入力ください。

問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

<https://www.jspnm.jp>

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

【利益相反に関する自己申告書の提出】

日本周産期・新生児医学会が定めた利益相反指針及び指針細則に則り、「発表者の利益相反自己申告書（様式2-1）」の提出が必要となります。

原則として利益相反の有無は演題の採択には影響しません。

演題が採択された場合、利益相反状態の有無にかかわらず、発表演題の最初のページ（スライド）に利益相反状態を明記してください。記載例を以下に示します。

◆利益相反状態にない場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

◆利益相反状態にある場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態は以下のとおりです。

- ・報酬額/ ○○製薬株式会社
- ・講演料/ □□製薬株式会社
- ・原稿料/ ◇◇製薬株式会社
- ・研究費・助成金（寄付講座所属）/ 株式会社××

2024年2月

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム運営委員会